

熊本県総合博物館ネットワークについて〔概要版〕

～新しい“熊本タイプ”の博物館を目指して～

第2章 各論

第1章 総論

1 これまでの経緯

- ・ 県立博物館の基本計画（平成10年）の実質的凍結後も、資料の収集、整理、保管に加え、収蔵資料を活用した展示や学習支援などの博物館活動を展開。
- ・ 平成20年以降、県立美術館に永青文庫常設展示室が整備。熊本市立熊本博物館とも連携した展示の充実を図る。

2 博物館をめぐる近年の動き

- ・ 博物館の役割は、第1世代（保存）から第2世代（公開）、第3世代（参加と体験）へと時代とともに変化。最近では、より積極的に歴史や自然に関わる（「参加と体験」）活動を深化させた第4世代と呼ばれる博物館活動が主流。

3 本県における今後の博物館のあり方

- ・ 本県には、古代から連綿と続く歴史や文化、恵まれた自然環境といった博物館活動の資産が溢れている。そのような本県こそ、教育や生涯学習の観点から効果が高い「参加と体験」型の博物館は理想的な姿。
- ・ 「県内どこに住んでいても」「参加と体験」できる博物館活動を展開するためには、人材や設備の充実が不可欠であるが、単独の博物館では困難。
- ・ このため、本県の歴史、文化、自然という宝を活かし、県民の知的欲求に応える

4 熊本県総合博物館ネットワーク～「参加」「活動」「成長」する新たな熊本タイプ

- ・ 熊本県総合博物館ネットワークは、参加する博物館全体でひとつの博物館のように機能することを目指し、県内の博物館に対するサポート機能、また、それぞれの連携体制を構築するネットワーク機能、それらをコーディネートする熊本県博物館ネットワークセンターから構成される、新たな“熊本タイプ”の博物館。
- ・ この取組に賛同する各種関係機関の協力の下、知的活動に「参加」する県民が増加し、さらに博物館「活動」を活発にすることで、県内の博物館とともに「成長」する博物館を目指す

5 タイムスケジュール

□第1ステージ（平成26年4月～平成27年秋）

- ・ 熊本県総合博物館ネットワーク整備開始
- ・ 熊本県総合博物館ネットワークの始動（平成27年秋）

□第2ステージ（平成27年秋～平成30年度）

- ・ ネットワークセンターを中核とするサポート機能及びネットワーク機能の充実

1 サポート機能〔博物館活動の県内一円での展開&資料の相互活用等のサポート〕

（1）展示

- ①県内博物館の収蔵資料の情報共有・相互活用や魅力ある共同企画展示
- ②海外の博物館と連携した企画展（オープニングイベントの開催）
- ③ネットワークセンターの収蔵資料を活用した展示
- ④県民が参画できる展示（民間研究団体やミュージアムパートナーズクラブ）

（2）学芸員による市町村等の支援など

- ①専属の職員がいない博物館等に対する支援（人材データベース等）
- ②展示会等を企画する総合プロデューサーの育成

（3）調査研究機能・資料修復機能の強化

- ①高度な機材を備えた調査研究環境の整備検討
- ②貴重な文化財の資料修復センターの整備検討

（4）学習支援

- ①出前講座、共催講座の開催
- ②ミュージアムパートナーズクラブの設立支援、活動支援

2 ネットワーク機能〔県内博物館等のネットワーク構築&博物館活動参加への環境づくり〕

（1）情報・施設間のネットワーク

- ①熊本県博物館資料データベースの構築及びポータルサイトの作成
- ②県立の博物館等施設との連携
- ③海外の博物館等とのネットワーク構築

（2）研修・イベント等のネットワーク

- ①学芸員の、展示や資料保存に関する技術研修、意見交換会の開催
- ②体験学習、ワークショップなどの合同イベントの開催

（3）調査研究・運営管理等のネットワーク

- ①共同研究の実施、紀要（調査研究報告書）の発行
- ②災害時の資料レスキュー活動ネットワークの構築
- ③県博物館連絡協議会のスキームの活用

3 ネットワークセンター

- サポート機能とネットワーク機能を発揮するための必要な施設整備
- 効果的な運営、経営的な感覚、専門的な人材確保のために指定管理者制度を含めた民間活力導入を検討
- 「集い」「遊び」「憩う」ことができる多目的広場、「品格ある」周辺施設の整備